

これであなたも「井戸尻」のプロフェッショナル!

井戸尻考古館のウラ側

をご紹介します

富士見町の宝「井戸尻」

八ヶ岳西南麓に花開いた縄文文化。平成30年5月には日本遺産にも認定され、中部高地を代表する縄文時代の遺跡として国の史跡に指定されている「井戸尻遺跡」をはじめ、「モナカの土器」でおなじみの県宝「水煙渦巻文深鉢」など、貴重な資料を数多く管理・展示する井戸尻考古館での学芸員の仕事は多岐にわたります。

しかし、井戸尻考古館に行ったことはあっても、そこで学芸員がどんな仕事をしているのか、そして井戸尻考古館に展示されている品々が、どのような過程を経て展示室へ並ぶか知っている人は、少ないのではないのでしょうか。今年度は曾利遺跡や広原遺跡での発掘調査も行われ、また新たな発見もありましたが、ご存知ですか？

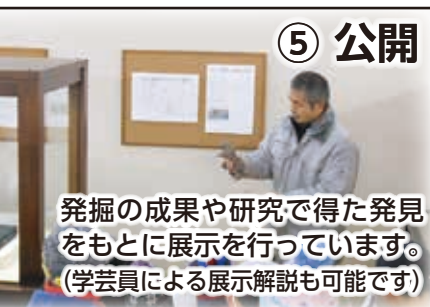
今回は、普段知る機会の少ない「考古館のウラ側」を、井戸尻考古館の学芸員、平澤愛里さんに紹介してもらいました。

4月から井戸尻考古館に所属された新人学芸員、平澤です。今回は、学芸員の普段の仕事や、井戸尻考古館のすごいところをお伝えします。



町の歴史や文化財に、多くの方が興味・関心を持ってもらうことを目標に様々なイベントに挑戦しています。

④ 普及



⑤ 公開

発掘の成果や研究で得た発見をもとに展示を行っています。(学芸員による展示解説も可能です)



皆さんに当館や町の歴史を知っていただけるよう、今後も創意工夫して情報をお届けします!



① 発見・発掘

工事等により地下の遺跡が破壊されてしまう場合や、遺跡を未来に残していくための準備として発掘調査を行っています。
(写真:令和3年 曾利遺跡発掘調査)



学芸員の仕事

私たちの普段の仕事を、大きく5つに分けて紹介します。



地面の下から出土した土器などを整理し、研究して、過去の人々の暮らしや考えをより深く理解するための手がかりとしています。

③ 研究

昨年末収蔵庫をきれいにしました。学芸員にとって一番大切な仕事は、私たちの祖先が残したモノを守り、未来へつないでいくことです。



② 保管・保存

実は！歴史民俗資料館も「すごい」んです

昨今の「縄文ブーム」もあり、考古館は様々なお客さんに来館いただいています。お隣の「歴史民俗資料館」も（実は）すごいってご存じですか？

資料館には、弥生時代以降の、遺跡から出土した資料のほか、農具や養蚕の道具といった「民俗資料」がたくさん展示されています。

「民俗資料」とは、古くから人々の暮らしの中で使われ続けてきた資料のことで、多くの家であたりまえに使われていた道具のことです。資料館の資料も、町内のお家などで、少し前まで使われていたものをいただき、展示しているものも多くあります。

ただ、こうした【普通】の道具は、急速に変化する時代の流れの中で、次々と無くなっています。資料館に展示してある道具を見て、

「懐かしい」と思う方もいれば、

「これ、どうやって使うの？」と思う方もいるでしょう。もう少し時が経つと、こうした民俗資料が残っていることが「すごい」という時代がやってきます。このような、「ちよつと昔」の道具がまだ現役で使われていたところから

資料の収集をはじめ、きれいな（壊れたり埃をかぶったりしていない）状態で、豊富な資料を保管・展示しているところが、歴史民俗資料館の「すごい」ところです。



▲実際に展示されているラジオ・扇風機・電話機

学芸員・平澤さんが教える 井戸尻の「ココ」がすてき！

その1 「おらあとう」の考古館

「おらあとう」とは富士見の方言で「私たち」という意味です。今から70年程前に、地元の方々が手弁当で発掘を行った井戸尻遺跡をはじめとする、町内の様々な遺跡からの出土品を、現在井戸尻考古館で展示しています。

井戸尻考古館の源流は富士見に暮らす先人の

「おらあとう」の村の歴史は、おらあとうの手であきらかに」という強い思いにあります。



その2 縄文図像学

考古学は「モノ」から過去の人々の生活や精神を復元しようとする学問です。文字がある時代の歴史はモノと文字を頼りに研究を進めます。

では、文字がない時代は？
残されたモノのみしか彼らについて知る手がかりはありません。当時の人々が心を込めて作った土偶や土器の文様から彼らの文化を読み取るという挑戦を、井戸尻考古館は続けてきました。



その3 美しい景観

考古館での勤務中、仕事の手をふと止め窓の外を眺めると、眼前に雄大な山々の裾が重なりあうようにして広がっています。晴れた日には富士山を望むこともできます。

井戸尻考古館はあの「モナカの土器」が出土した曾利遺跡の上に建っています。曇っていても晴れていても、一幅の絵のように美しいこの景観を、きつと縄文の人々も眺めていたことでしょう。

100年後に伝えたい 富士見の「モノ」「こと」「話」を 募集しています

☎ 生涯学習課 文化財係 ☎64-2044

【募集内容】

未来の人に伝えたい、身近なモノや行事、自分の体験や先人に聞いた話・教訓などで、「富士見」に関わるものごと

【募集期間】 3月31日（木）まで

【備考】

- ・書式・文字数は自由です。
- ・いただいた意見は整理し、歴史民俗資料館にて展示予定です。



たたき上げの”縄文人” ～ 初代館長 武藤 雄六さん ～

多くの遺跡を発掘し、500点にも及ぶ土器の修復を行い、井戸尻考古館・歴史民俗資料館の研究と保存の基礎を築いた武藤さん。この地に生きる自らの経験と、



直感に基づく実践。その姿勢はもはや「縄文人」そのものです。

武藤さんは2022年1月15日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(文：現館長 小松 隆史)